

『「鐵」が中央アジアの砂漠を馬「驥」に乗って、西から東に駆け抜け、中国に伝わった』とイメージを膨らませると楽しくて、私には最もピンと来る。

中央アジアの砂漠を馬に乗って、「鐵」がシルクロードの草原を西から東に駆け抜けた鉄「鐵・テツ」の字とともに馬「驥・テツ」の字の存在がそれを示している

そんなことを考えているときに NHK「新シルクロード 草原の道」が放送され、シルクロードの草原を駆け巡る赤黒色の騎馬を見ました。そして この道筋に残る古い仏像壁画には「鐵線描」という鉄の痕跡が残っていて、これも日本にまで伝わったという。

鐵の字源に描いた私のイメージにぴったりでビックリである。

アジアの西端小アジアで紀元前数千年前にヒツタイト人の中で生まれ、遠くアジア大陸→中国・朝鮮半島を通じて 日本に伝わった。

日本で製鉄が始まるのが、5 世紀後半。この頃 アジア大陸では 草原の民「突厥」(カザフ族のルーツ)が世界帝国を打ち建てた。彼らが発明した鉄の「あぶみ」をつけ、鉄の武器を持った騎馬軍団がシルクロードを東へ東へと駆け抜けたという。

また、中国で「天馬」「赤兎馬」と呼ばれ、珍重された赤黒色の小さな馬も中央アジアの草原からもたらされたものである。

シルクロードの草原を馬とともに鉄が駆け抜け、シルクロードの国々中国 朝鮮半島 そして 日本の国々に新しい文明と文化をもたらした「鐵」まさに 「鐵は五金の王」なりである。



豊富な鉄を武器に草原を駆け抜けた騎馬集団「突厥」 NHK 新シルクロード 草原の道より



シルクロードの仏教国 ホウタンで生まれた「鐵線描」で描かれた仏教壁画

NHK 新シルクロード 草原の道より

アジアの西端小アジアで紀元前数千年前にヒツタイト人の中で生まれ、遠くアジア大陸→中国・朝鮮半島を経て 日本に伝わった。

日本で製鉄が始まるのが、5 世紀後半。この頃 アジア大陸では 草原の民「突厥」（カザフ族のルーツ）が世界帝国を打ち建てた。彼らが発明した鉄の「あぶみ」をつけ、鉄の武器を持った騎馬軍団がシルクロードを東へ東へと駆け抜けたという。

また、中国で「天馬」「赤兎馬」と呼ばれ、珍重された赤黒色の小さな馬 それも中央アジアの草原からもたらされたものである。

シルクロードの草原を馬とともに「鉄」が駆け抜け、シルクロードの国々中国 朝鮮半島 そして 日本の国々に新しい文明と文化をもたらした「鉄」

そして、シルクロードに残る数々の壁画に描かれた仏像の顔は「鉄線描」と呼ばれる「針金を思わせる赤黒色の太い線」で縁取られ、ここにもシルクロードを駆け抜けた「鐵」の痕跡が残っている。

「鉄線描」はシルクロード天山山脈の麓の仏教国ホータンで生まれ、中国 棟。隋の長安で花咲き、法隆寺の壁画、そして現代の日本画の主要技法として脈々と受け継がれてきたという。

源氏物語絵巻を彩る「引き目 かぎ鼻」の技法のルーツもこれか・・・

「シルクロード」は「鉄の道」。「鐵」の痕跡が騎馬民族集団の馬や古い仏像壁画などに点々と残っている。ほんの気まぐれで、「鐵」の字の「ルーツ」を調べだしたちょうどそんな折、シルクロードの草原を駆け抜ける赤黒色の馬「鐵」にまたがり、疾駆する騎馬軍団が映し出された。

(NHK 特集 新シルクロード全集 草原の道)

「シルクロードを馬に乗って駆けた鉄の姿」

そんなシルクロードの痕跡を今に残しているのが「鐵」「鐵」の文字ではないか・・・

これが「鐵」の字のルーツか・・・

まさに「鉄は五金の王なり」と勝手にイメージしています。

でも、鐵を語るときには いつも見え隠れする「勝ち組と負け組」 体制と反体制の葛藤

「五金の王 鐵」の言葉の裏に「鬼伝説」として「鬼」にされてきた「製鉄の民」の姿を忘れてはならないが・・

国を築き、文化を作って世界を動かしてきた「鐵」

これからも、鐵が持つエネルギーが武器ではなく平和・文化をさらにクリエイティブしてゆくことを願う。

2006. 1. 15. 記

【参 考】

1. 「鐵」におけるミスマッチ —鐵を活かす— 豊田政男

鐵の字源をこね回している時に、ずっと以前一緒に仕事をしたこともある同じ材料屋 阪大豊田政男氏のコラム「「鐵」におけるミスマッチ」の中で「鐵を活かす」と題する「鐵」の字源に関する一文をインターネットで見つけました。

10年も前の一文ですが「鉄と鋼」に対する仲間の心根が垣間見える一文として紹介。

「鐵」におけるミスマッチ —鐵を活かす— 豊田政男（平成5年3月8日）

<http://www7.mapse.eng.osaka-u.ac.jp/member/Toyoda/essay/MisMatch/MisMatch.html#0900>

2. 「鉄」の字源

社団法人 日本鉄鋼連盟 <http://www.jisf.or.jp/knowledge/mini/> より

「鉄」という字の正字は「鐵」で、これを解くと「金+𠄎+呈」となる。

「𠄎」は「切る」という意味があり、「真っ直ぐに物を切り落とす鋭利な金属」を表している。

また、別に「鐵」を「金の王なる哉」と解く説がある。

江戸時代の思想家三浦梅園は、「金とは五金（金、銀、銅、鉛、鉄）の総称なり、五金の内にては鉄を至宝とす。

如何となれば鉄その価、廉にして、その用広し。

民生一日も無くんば有るべからず」と記している。

現在最も広範に利用されている金属であることを考えると、正鵠を射た説ともいえる。

「鉄鋼の実際知識」（発行：東洋経済新報社、編者：鋼材倶楽部）より抜粋。

3. 漢和中辞典ほかによる「鉄」の字源

「鐵」の旁「𠄎」は、音のテツを表し、（きる）と（たいら）の意味の呈の合わさったもので、まっすぐに物を切り落とす鋭利な金属を表す（藤堂他偏，漢字源）。

また、旁「𠄎」は赤黒色の意味の語源（漆シツ）からきているともいう

（貝塚他偏，漢和中辞典）。 . . .



4. NHK BS ハイビジョン特集 新シルクロード

新シルクロード全集 決定版 第3集 草原の道風の民